

平成 22 年度
大阪大学大学院
高度副プログラム



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

目 次

平成22年度 高度副プログラム一覧	1
平成22年度 大阪大学大学院高度副プログラムについて	
1. 高度副プログラムとは	3
2. 履修対象者	3
3. 費用	3
4. 履修条件	3
5. プログラムの履修手続について	4
6. プログラムのカリキュラムについて	5
7. プログラム提供科目のシラバスについて	5
8. プログラムの修了要件について	6
9. プログラムの修了について	8
10. プログラムの授業科目について	8
11. プログラムの修得単位について	8
12. 休講等の通知について	8
13. プログラム実施部局・連携部局について	8
14. 大阪大学ホームページでの情報掲載について	9
15. 各プログラムの説明会日程等について	9
16. 各プログラム紹介	11

平成22年度 高度副プログラム一覧

	プログラム名称	プログラム実施部局	履修対象者	ページ
1	ERASMUS MUNDUS 英語授業・現代日本論	文学研究科	M・D	1 1
2	アート・メディアロジー入門講座ー理論と実践	文学研究科	M	1 2
3	医科学修士の健康医療問題解決能力の涵養	医学系研究科（医科学専攻）	M	1 3
4	高度がん医療人材育成プログラム	医学系研究科（保健学専攻）	M・D	1 4
5	まちづくりデザイン学	工学研究科	M	1 5
6	環境リスク管理学	工学研究科	M	1 6
7	高度溶接技術者プログラム	工学研究科	M・D	1 7
8	学際光科学	工学研究科	M・D	1 8
9	光通信及びフォトニックネットワーク工学	工学研究科	M	1 9
10	認知脳システム学	基礎工学研究科	M・D	2 0
11	言語情報処理の手法と展開	言語文化研究科	M・D	2 1
12	グローバルリーダーシップ・プログラム	国際公共政策研究科	M・D	2 2
13	IT Spiral	情報科学研究科	M1	2 3
14	高度情報ネットワーク実践 スペシャリスト	情報科学研究科	M	2 4
15	感染症学免疫学融合プログラム	微生物病研究所	D	2 5
16	インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践	留学生センター	M・D	2 6
17	臨床医工学・情報学融合領域の人材育成 教育プログラム：専門科	臨床医工学融合研究教育 センター	M・D	2 7
18	臨床医工学・情報学融合領域の人材育成 教育プログラム：高度職業人育成科	臨床医工学融合研究教育 センター	M・D	2 8
19	コミュニケーションデザイン	コミュニケーションデザイン ・センター	M・D	2 9
20	金融・保険	金融・保険教育研究センター	M・D	3 0

	プログラム名称	プログラム実施部局	履修 対象者	ページ
2 1	グローバル共生	グローバルコラボレーション センター	M・D	3 1
2 2	人間の安全保障と開発	グローバルコラボレーション センター	M・D	3 2
2 3	司法通訳翻訳論	グローバルコラボレーション センター	M・D	3 3
2 4	現代中国研究	グローバルコラボレーション センター	M・D	3 4
2 5	サステイナビリティ学	サステイナビリティ・デザイン ・センター	M・D	3 5
2 6	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学 際教育研究訓練プログラム（博士前期課程 高度学際教育）	ナノサイエンスデザイン教育 研究センター	M	3 6
2 7	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学 際教育研究訓練プログラム（博士後期課程 社会人特別選抜）	ナノサイエンスデザイン教育 研究センター	D	3 7

※履修対象者

M・・・博士前期課程・修士課程、生命機能研究科の博士課程1・2年生

D・・・博士後期課程・博士課程、生命機能研究科の博士課程3年生以上

平成22年度 大阪大学大学院高度副プログラムについて

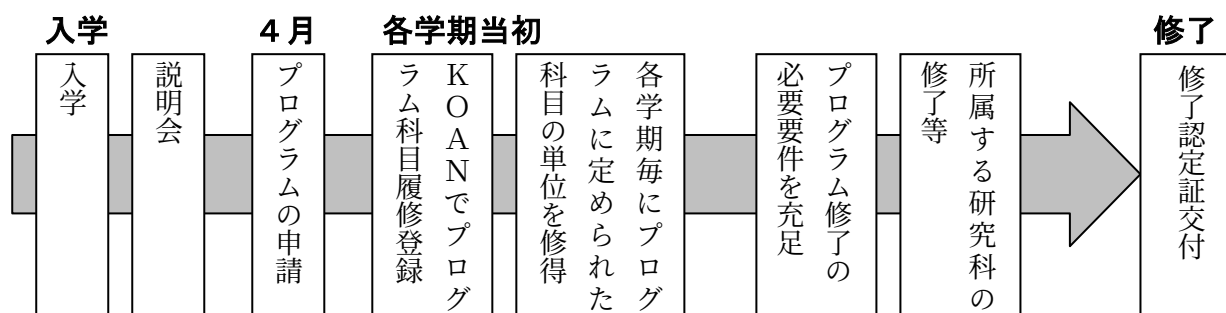
1. 高度副プログラムとは

近年の学問分野の学際化・融合化により、幅広い分野の知識と柔軟な思考能力を持つ人材など社会において求められる人材の多様な要請に対応する取組として、教育目標に沿って、一定のまとまりを有する授業科目により構成され、体系的に履修することのできるプログラムです。

プログラム毎に定める要件を満たすことで、所属する大学院の課程を修了（修士学位取得退学及び博士後期課程・博士課程単位修得退学を含む。）する際にプログラムの修了認定証が交付されます。

平成22年度は、27のプログラムが開設されます。

プログラム修了までの流れ



2. 履修対象者

大学院学生（科目等履修生・特別聴講学生を除く）

3. 費用

プログラムを履修することに対しては特別な費用はかかりません。ただし、プログラムの科目によっては、授業を受ける際に交通費などの実費がかかることがあります。

4. 履修条件

大阪大学大学院の課程に在学していることが必要です。その他、プログラム毎に履修条件や履修者数の制限を設ける場合もありますので、個々のプログラムの説明を参照してください。履修制限のないプログラムについては、所属する研究科・学年を問わず履修することができます。

なお、複数のプログラムを同時に履修することも可能です。

ただし、「博士前期課程・修士課程」と「博士後期課程・博士課程」とでは、履修できるプログラムが異なりますので、詳細はプログラム一覧（1、2ページ）で確認してください。

5. プログラムの履修手続について

プログラムの履修手続としては、「プログラムの申請」と「プログラム科目の履修登録（KOANでの登録）」の両方を行う必要があります。

プログラムの申請は、Webを使用して行うプログラムと申請書の提出にて行うプログラムがあります。Webによる申請については、各学期の始めにKOAN掲示板にて、申請書の提出による申請については、各プログラムが発行する冊子にてお知らせします。

プログラム科目の履修登録（KOANでの登録）は、学期毎にKOANを使用して当該学期に履修する授業科目について、所属する研究科で設定している履修登録期間内に行ってください。

その他、プログラムによっては、KOANの履修登録以外に年度当初又は学期毎に履修するプログラム科目の申請が必要な場合もあります。各プログラムの指示に従ってください。

下記の高度副プログラムについては、以下のとおり申請手続や履修にあたっての注意事項がありますので、熟読のうえ手続等を行ってください。

	プログラム名称	申請手続等に関する注意事項
3	医科学修士の健康医療問題解決能力の涵養	講義の場所・日時等は、KOANあるいはプログラムHP上で確認してください。 履修希望の場合は、KOAN登録に先立ち、本プログラム実施責任者（磯 博康、内線：3911、e-mail: jimu@pbhel.med.osaka-u.ac.jp）との面接が必要となります。 氏名（ふりがな）、学籍番号、電話番号、メールアドレス、履修希望科目名と科目コードを上記アドレスまで送信してください。その際、件名を「高度副プログラム履修登録」としてください。なお、連絡が無い場合は履修できません。
1 1	言語情報処理の手法と展開	本プログラムの申請様式は(http://www.lang.osaka-u.ac.jp/)からダウンロード可能です。
1 2	グローバルリーダーシップ・プログラム	2学期開講の「実践グローバルリーダーシップ」の履修のためには、1学期開講の「リーダーシップを考える」の受講をすすめます。1学期開講集中講義「リーダーシップデザイン」の受講者にも、「リーダーシップを考える」の受講をすすめます。 その他については各講義のシラバスを参照してください。
1 3	IT Spiral	出願、履修の詳細については、IT Spiral のパンフレットを参照してください。 (パンフレットはIT Spiral 事務局にあります。)
1 4	高度情報ネットワーク実践スペシャリスト	別途、KOAN の掲示板機能で通知します。

	プログラム名称	申請手続等に関する注意事項
17	臨床医工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム：専門科	KOANに加えて、MEI センターホームページ (http://www.mei.osaka-u.ac.jp) 上でも、履修登録を行う必要があります。氏名、電話番号、メールアドレス、履修希望の本プログラム授業科目名を MEI センターに登録し、本プログラムの履修者としてします。氏名、電話番号、メールアドレス等は授業等で連絡が必要な場合に利用します。
18	臨床医工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム：高度職業人育成科	
19	コミュニケーションデザイン	プログラム科目の履修登録については、コミュニケーションデザイン・センターの「履修ガイドブック」またはホームページ (http://cscd.osaka-u.ac.jp/) をご覧ください。
26	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム（博士前期課程高度学際教育）	所属研究科の専攻カリキュラム（主専攻）の履修計画、本プログラム履修科目が開設される施設への移動時間を考慮の上、無理のないナノ学際教育研究訓練プログラムの履修計画を立ててください。申請には KOAN の Web 履修登録及び所定の申請書用紙を使用してください。
27	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム（博士後期課程社会人特別選抜）	希望者は本プログラムの趣旨とテーマ内容の概要を参考にして課題内容、サテライト教室の地域、履修条件などの詳細をホームページ上で必ず確認の上、申請してください。東京田町、京阪奈、中之島センター、吹田・豊中キャンパス以外の地域での受講を希望する人は事前にナノプログラム事務局に相談してください。 申請用紙はナノプログラム事務局に請求してください。

6. プログラムのカリキュラムについて

プログラム毎に提供する授業科目や修了要件単位数が決まっています。プログラムの提供する科目は、プログラム実施部局や連携部局等で開講する授業科目から構成されています。本冊子には、プログラムのカリキュラムについては記載していませんので、興味のあるプログラムについてはホームページ等を参照してください。

7. プログラム提供科目のシラバスについて

プログラムの提供する科目のシラバスは、各プログラムが発行する冊子等を参照するか KOAN のシラバスを検索してください。

8. プログラムの修了要件について

プログラム毎に修了要件に違いがあります。本冊子には、プログラムの修了に必要な最低単位数を記載していますが、プログラムによっては必修科目を設けたりコースを選択するなど条件に違いがあります。詳細については、各プログラムの紹介冊子等で確認してください。

また、プログラムの修了に必要な単位と所属している研究科の専攻の修了に必要な単位との重複は認められます。ただし、所属する専攻の修了に必要な最低修得単位数以外に最低4単位は、当該プログラムの単位として修得する必要があります。専攻の修了に必要な単位として認められるかどうかは、所属する研究科の教務担当係に確認してください。

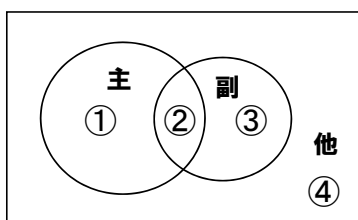
その他、プログラムの修了に必要な単位とその他の高度副プログラムの修了に必要な単位との重複も認められます。

【注意】

プログラムで定める授業科目をプログラムの申請以前に履修している場合は、既に修得している単位がプログラムの修了要件単位として認定されることがあります。詳細については各プログラムに問い合わせてください。

《大学院高度副プログラムの修了要件》

修得した単位を下記の区分①～④に分けた場合、



- ①…研究科の修了要件科目 の単位
- ②…研究科の修了要件科目 かつ 副プログラム科目 の単位
- ③…副プログラム科目 の単位
- ④…研究科の修了要件【外】科目 かつ 副プログラム【外】科目 の単位

研究科の修了要件単位数を「(A) 単位」とすると、以下の3つの条件をすべて満たすことが必要です。

条件1：高度副プログラムの修了要件単位を満たすこと。

条件2：『①+②+③≥(A)+4』を満たすこと。(博士前期課程で(A)=30の場合、「34単位以上」)
高度副プログラム科目の単位と、所属している研究科の修了要件単位との重複は認められるが、研究科の修了に必要な最低修得単位数以外に**最低4単位は、当該副プログラムの単位として修得**することが必要。

(注：副プログラム科目を研究科の修了要件として認めるかどうかの可否は各研究科の判断による。)

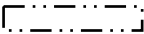
条件3：大学院を修了すること。(修士学位取得退学及び博士後期課程・博士課程単位修得退学を含む。)

《大学院高度副プログラムの修了に必要な単位について》

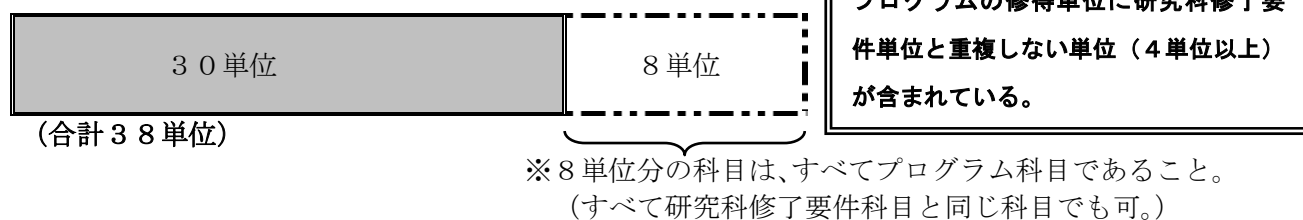
●履修例

研究科の修了要件単位数 : 30単位
プログラム修了要件単位数 : 8単位 } の場合

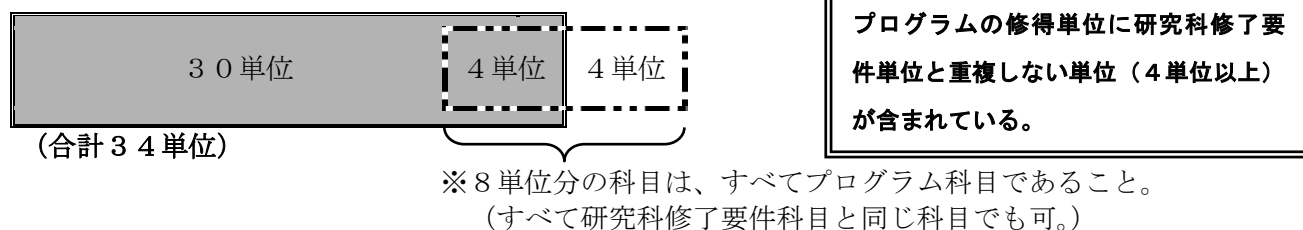
◎凡例

研究科の修了要件単位・・・
プログラム修了要件単位・・・

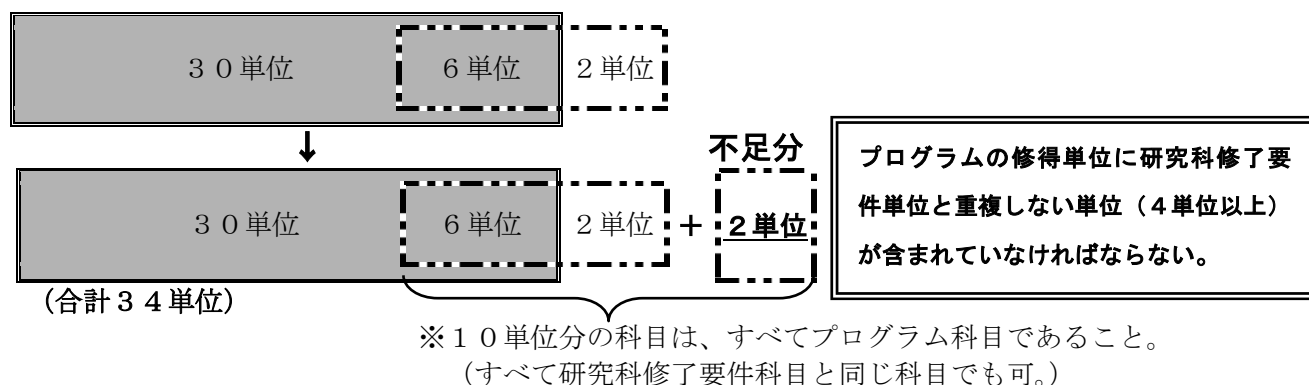
- ① 修得単位【プログラム修了要件単位（8単位）】が、すべて研究科修了要件の修得単位と重複しない場合。



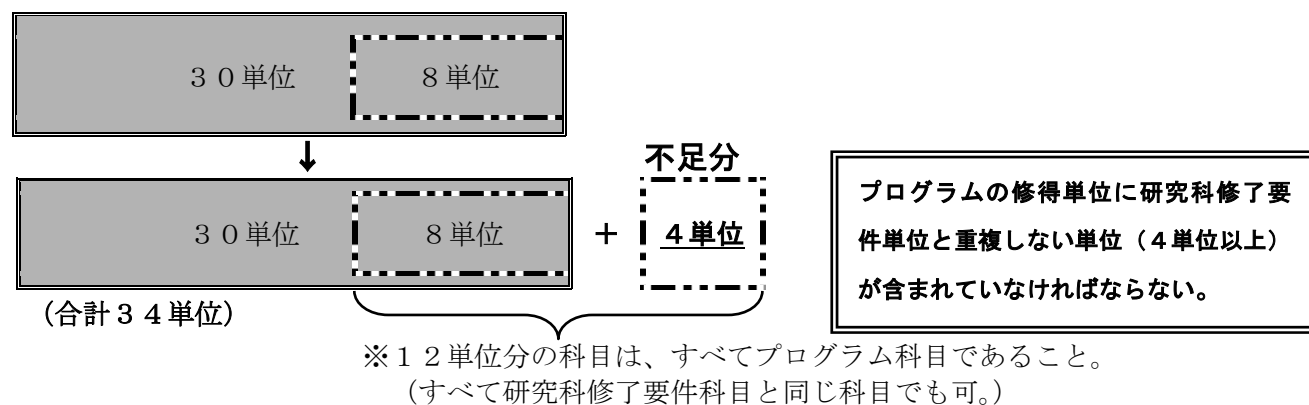
- ② 修得単位【プログラム修了要件単位（8単位）】の内、4単位が研究科修了要件の修得単位と重複する（研究科の修了要件単位に認められる）場合。



- ③ 修得単位【プログラム修了要件単位（8単位）】の内、6単位が研究科修了要件の修得単位と重複する（研究科の修了要件単位に認められる）場合。



- ④ 修得単位【プログラム修了要件単位(8単位)】が、すべて研究科修了要件の修得単位と重複する（研究科の修了要件単位に認められる）場合。



9. プログラムの修了について

プログラムの修了に必要な条件を全て満たすと、大学院の課程を修了するとき（修士学位取得退学及び博士後期課程・博士課程単位修得退学を含む。）にプログラムの修了認定証を授与します。

修了認定証の交付は、所属する研究科の教務担当係より行われます。

10. プログラムの授業科目について

プログラムの提供する授業科目の開講は、プログラムを履修している当該学生の課程の標準修業年限内は保証されますが、それ以降はカリキュラムの変更等の理由で開講されない場合がありますのでご注意ください。

11. プログラムの修得単位について

履修中のプログラムを修了せず大学院を修了又は退学し、当該プログラムの修得単位がある場合は、社会人対象の科目等履修生高度プログラムを履修する際に、当該単位を新たに履修する科目等履修生高度プログラムの既修得単位として認定されることがあります。詳細については各プログラムに問い合わせてください。**（ただし、新たに履修する科目等履修生高度プログラムにおいて、高度副プログラム修得単位の科目と共通する科目がある場合に限りです。）**

12. 休講等の通知について

授業の休講やプログラムに関する通知等の連絡は、原則、KOAN掲示板により行うことになっています。プログラムによってメールアドレスやホームページを使用する場合がありますので、各プログラムの指示に従ってください。

13. プログラム実施部局・連携部局について

プログラム実施部局とは、高度副プログラムを企画し開講するそのプログラムに対して責任を持つ大阪大学の研究科などの組織（（注）を参照）をいいます。プログラムについて質問や連絡することがありましたら、そのプログラムの実施部局にある担当事務室にご連絡ください。

また、連携部局とは1つのプログラムを複数の大阪大学の研究科などの組織が連携して開講する場合の実施部局以外の部局をいいます。それぞれのプログラムの連携部局がこういった役割を担うかは各プログラムによって違いがあります。

（注）ここでの部局とは、大阪大学の下記の組織を指します。

- ・研究科
- ・附置研究所
- ・学内共同教育研究施設
- ・全国共同利用施設

14. 大阪大学ホームページでの情報掲載について

大阪大学ホームページから「教育・研究活動」→「副専攻的な教育」の中に高度副プログラムについてのページを設けてあります。各プログラムのホームページへもリンクしています。

アドレス（ <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/research/fukusenkou> ）

15. 各プログラムの説明会日程等について

説明会を開催するプログラムについては、以下のとおりです。

	プログラム名称	説明会日程等
4	高度がん医療人材育成プログラム	未定
5	まちづくりデザイン学	平成22年4月7日（水）14：40～ （吹田）コンベンションセンター会議室2
6	環境リスク管理学	○平成22年4月7日（水）10：00～ （豊中）基礎工学部国際棟Σ（シグマ）ホール ○平成22年4月7日（水）14：40～ （吹田）コンベンションセンター会議室2
7	高度溶接技術者プログラム	日程・場所は、決まり次第、ホームページ （ http://www.mapse.eng.osaka-u.ac.jp/mmsiwe/index.html ）等で通知します。
8	学際光科学	○平成22年4月7日（水）10：00～ （豊中）基礎工学部国際棟Σ（シグマ）ホール ○平成22年4月7日（水）14：40～ （吹田）コンベンションセンター会議室2 詳しくはホームページ（ http://www.ppc.osaka-u.ac.jp/ ）にて掲載します。
10	認知脳システム学	基：4月7日（水）新入生ガイダンスにて実施（B303 大講義室） 医：4月6日（火）10時～ 講義棟第2講義室 人科（1年生対象）：4月6日（火）14時～ 第51講義室 人科（上記以外）：4月6日（火）15時～ 第11、31、41、44、404各講義室 情：4月9日（金）13時30分～ コンベンションセンターMOホール
12	グローバルリーダーシップ・プログラム	決定次第 KOAN の掲示板で通知します。
13	IT Spiral	平成22年4月9日（金）大学院情報科学研究科入学ガイダンスにて行います。但し、他研究科の学生は、IT Spiral 事務局に問い合わせてください。

	プログラム名称	説明会日程等
14	高度情報ネットワーク 実践スペシャリスト	平成22年4月9日(金) 大学院情報科学研究科 専攻別ガイ ダンスにて行います。なお、他専攻・他研究科の学生は、問い合 わせ先に連絡してください。個別に対応します。
15	感染症学免疫学融合 プログラム	決定次第 KOAN の掲示板で通知します。
16	インターカルチュラ ル・コミュニケーション の理論と実践	対象科目の最初(および2週目)の授業の際、以下のとおり各 担当者が説明します。 4月13日(火) 5時限 16:20～ 言語文化研究科 2階演習室 2(村岡) 4月14日(水) 2時限 10:30～ 言語文化研究科 3階演習室 1(大谷) 4月14日(水) 5時限 16:20～ 言語文化研究科 5階演習室 4(西村) 4月15日(木) 2時限 10:30～ 言語文化研究科 2階演習室 1(三牧)
17	臨床医工学・情報学融 合領域の人材育成教育 プログラム：専門科	4月中旬と9月下旬に行います。日程が決まり次第、ホーム ページ (http://www.mei.osaka-u.ac.jp) 等でお知らせします。
18	臨床医工学・情報学融 合領域の人材育成教育 プログラム：高度職業 人育成科	
19	コミュニケーション デザイン	CSCD が提供する科目の第1回目の授業の際に、各担当教員が 説明を行います。
20	金融・保険	平成22年4月12日(水) 18:00～ 豊中キャンパス法経講義棟1階第1講義室
21	グローバル共生	合同ガイダンス ○平成22年4月7日(水) 10:00～ (豊中) 基礎工学部国際棟Σ(シグマ)ホール ○平成22年4月7日(水) 14:40～ (吹田) コンベンションセンター会議室2 (その他の説明会は、日程が決まり次第ウェブサイトに掲載いた します。)
22	人間の安全保障と開発	
23	司法通訳翻訳論	
24	現代中国研究	
25	サステナビリティ学	○平成22年4月7日(水) 10:00～ (豊中) 基礎工学部国際棟Σ(シグマ)ホール ○平成22年4月7日(水) 14:40～ (吹田) コンベンションセンター会議室2
26	ナノサイエンス・ナノ テクノロジー高度学際 教育研究訓練プログラ ム(博士前期課程高度 学際教育)	○平成22年4月7日(水) 12時10分～12時50分 (吹田) 工学研究科U2棟212講義室 ○平成22年4月8日(木) 12時10分～12時50分 (豊中) 基礎工学研究科G棟516講義室

16. 各プログラム紹介

プログラム名称	ERASMUS MUNDUS英語授業・現代日本論		
プログラム実施部局	文学研究科		
連携部局	—		
修了要件単位数	8単位以上		
履修対象者	修士 及び 博士	対象者制限の有無	有
プログラム概要及び教育目標	エラスムス・ムンドゥス・マスター・プログラム(「ユーロカルチャー」)在籍の留学生を対象とする当プログラムに、本学在籍の留学生や留学を志す日本人学生が参加することにより、国際的な大学教育をめざします。授業はすべて英語で行われ、教員と学生の間、学生相互間でディスカッションを行うことにより、双方向的な授業を実施します。ヨーロッパ、アメリカ、アジアなどの諸外国との関係、交流、影響を視野に入れながら、特に「現代」を主題化しつつ、日本の文化、社会、歴史、芸術、文学、言語について学習します。 毎年10月～12月にかけて5コマの授業を10回開講。授業時間以外に英語による文献を読むことが求められるとともに、交流会、見学会などを実施し、異なる文化のもとで生まれ育った学生同士のコミュニケーションおよび相互理解をめざします。日本人学生にとっては、英語を通じて、国際的見地から自らの文化、社会、歴史を相対化するとともに、英語による発言能力を養い、日本文化・歴史を理解可能なものとして発信することを学ぶことになります。		
履修資格・条件	エラスムス・ムンドゥス・マスター・プログラム在籍の学生はTOEFL580点以上の成績の所持者であるため、それと見合う英語能力を有していること。		
修了要件	3年以内に8単位を修得すること。		
ホームページ・問い合わせ先等	ホームページ: http://www.let.osaka-u.ac.jp 問合せ先: 文学研究科教務係 e-mail: bunsouhaku-kyoumu@office.osaka-u.ac.jp		
説明会の日程	—		
特記事項	なし		

プログラム名称	アート・メディアロジー入門講座－理論と実践		
プログラム 実施部局	文学研究科		
連携部局	－		
修了要件単位数	8単位以上		
履修対象者	修士	対象者制限の 有無	無
プログラム概要 及び教育目標	「アート・メディアロジー入門講座－理論と実践」は、現代社会でアートによるプロジェクトを計画し、社会的実践に結び付けて行くスペシャリストを育成するプログラムです。アートが現代社会の諸局面で活用される機会は増えてきていますが、アートの社会的機能についての根本的な理解なしには継続的で影響力のある実践はできません。アートを社会に生かし、社会に根付いたものにするためにはただ単に実践出来るだけではなく、アートについてその必要性を社会的に説明できることも重要です。このプログラムは、そのような現代社会の多ジャンルにまたがるアートのメディアとしての役割、現代社会における意義、未来への展望について理論的歴史的に理解を深めるとともに、インターンシップや実践的なプロジェクトに参加することで具体的なアート・プロジェクトの過程を学びます。 教育目標 メディアとしての各アートにおける基礎的知識の習得 アートを媒介にする社会的実践能力の育成 地域社会とアートを結び付けるデザイン力の涵養		
履修資格・条件	－		
修了要件	1年以内に8単位を修得すること。		
ホームページ・ 問い合わせ先等	ホームページ: http://www.let.osaka-u.ac.jp 問合せ先: 文学研究科教務係 e-mail: bunsouhaku-kyoumu@office.osaka-u.ac.jp		
説明会の日程	－		
特記事項	このプログラムは、博士前期(修士)課程のプログラムですが、博士(後期)課程の学生の学生も受講することができます。		

プログラム名称	医科学修士の健康医療課題解決能力の涵養		
プログラム 実施部局	医学系研究科・医科学専攻		
連携部局	—		
修了要件単位数	8単位以上		
履修対象者	修士	対象者制限の 有無	無
プログラム概要 及び教育目標	医療系の人材の育成には、人間社会の枠組みを律する人文社会科学系の知識・技能の教育が必要です。わが国では少子高齢社会を迎え、健康や医療問題が複雑化している現在、医科学の専門知識、技能の習得のみならず、健康医療の諸問題に対処し解決する能力が求められています。 そこで、本教育プログラムは、大阪大学の新しい教育・研究体系としての主要プロジェクトの一つである文理融合の一環として、狭義の医学領域のみではなく、人文社会科学領域の基礎的知識を有し、倫理性、社会性、専門性、応用力、リーダーシップを兼ね備えた均衡のとれた研究者並びに専門職業人の育成に当たることを目的としています。 具体的には、社会医学分野の講義として、以下の科目を選択科目として開講します。 1)健康政策学総論（2単位） 2) 健康政策学各論（2単位） 3) 疫学総論（2単位） 4) 疫学各論（2単位） 5) 医事法（2単位） 6) 知的財産権法（2単位） 7) 医療経済・経営入門（1単位） 8) 経済学・経営学の基礎理論（1単位） 9) 国際感染症学(2単位) 10) 環境健康リスク論(2単位)		
履修資格・条件	博士前期課程在籍者		
修了要件	本プログラムの修了要件は、上記の講義科目から8単位以上を修得することとします。		
ホームページ・ 問い合わせ先等	http://www.msc.med.osaka-u.ac.jp/index.html 大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学教室 Tel:06-6879-3911 Fax:06-6879-3919		
説明会の日程	—		
特記事項	講義の場所・日時等は、KOANあるいはプログラムHP上で確認してください。 履修希望の場合は、KOAN登録に先立ち、本プログラム実施責任者（磯 博康、内線：3911、e-mail: jimu@pbhel.med.osaka-u.ac.jp）との面接が必要となります。 氏名（ふりがな）、学籍番号、電話番号、メールアドレス、履修希望科目名と科目コードを上記アドレスまで送信してください。その際、件名を「高度副プログラム履修登録」としてください。なお、連絡が無い場合は履修できません。		

プログラム名称	高度がん医療人材育成プログラム		
プログラム 実施部局	医学系研究科(保健学専攻)		
連携部局	薬学研究科、核物理研究センター		
修了要件単位数	8単位以上		
履修対象者	修士 及び 博士	対象者制限の 有無	無
プログラム概要 及び教育目標	チーム医療を推進できる、がん専門医療者を養成し地域のがん医療の向上を図ることを目的に文部科学省に採択された「チーム医療を推進するがん専門医療者の育成—集学的治療から在宅医療そして緩和ケアまで—」に係る各コース(がん医療専門医、がん医療コメディカル、がん専門インテンスブ)の受講者を対象に高度医療従事者等として、倫理性、社会性、専門性、応用力、リーダーシップを備えた幅広い均衡のとれた人材(研究者、専門職業人等)の育成を行うことを目的とします。各コースの受講者でかつ所定の単位数を修得することにより、異分野の専門性を垣間見ることができ有益と考えています。また、医学部附属病院オンコロジーセンター主催で専門医師、医療スタッフによる症例検討を行い最適の診療方針を議論する場としてカンサーボードを実施しており演習科目の一部として取り扱います。 がん医療の専門職を目指さない大学院生の中で、心理学、栄養学、倫理学、経済学等、がん医療に関連する領域を学ぶ学生、またがんに興味をもつ学生の受講を歓迎します。開講講義には専門性の高い講義も含まれているので、専門職を目指さない大学院生は一般性の高い講義の受講が望ましいのでご相談下さい。		
履修資格・条件	①～③の条件等有 ①演習科目について受講人数の制限有(詳細は担当教員に確認要) ②開講場所が学外で行われる場合がある(詳細は担当教員に確認要) ③受講者数により開講時期を変更する場合がある(詳細は担当教員に確認要)		
修了要件	本プログラムの科目から8単位以上を修得することとします。		
ホームページ・ 問い合わせ先等	http://osaka.ganpro.jp/index.html		
説明会の日程	未定		
特記事項	開講学期、開講場所等についてはKOANまたは医学系研究科保健学専攻教務係あて確認してください。		

プログラム名称	まちづくりデザイン学		
プログラム 実施部局	工学研究科		
連携部局	コミュニケーションデザイン・センター		
修了要件単位数	8単位以上		
履修対象者	修士	対象者制限の 有無	無
プログラム概要 及び教育目標	【プログラム概要】 本教育プログラムにおいては、まちづくりにおいて必要とされる、「かたち」「しくみ」「こころ」の形成のあり方に関するデザイン力を、生活の質の向上、産業の活性化、社会サービスの効果的な提供などの視点を組み込み、養うことを目指します。そのため、主に居住まちづくり、交通まちづくり、環境まちづくり系の諸科目を基礎として学び、具体の地域・まちづくりデザインにおいて、これらの要素を総合化するという授業体系を備えています。 【教育目標】 ①現実のまちが抱えている問題発見と課題抽出能力の養成 ②まちづくりデザインを構成する各分野における基礎的知識の習得 ③課題解決のための各分野における実践技術の習得 ④各分野における個別デザイン能力の養成 ⑤具体の地域における総合的デザイン能力の養成		
履修資格・条件	なし		
修了要件	本プログラムの科目から8単位以上。ただし、「リノベーションまちづくりデザイン」は必修。 【工学研究科開講科目】（各科目2単位） 交通・地域計画論、交通システム分析論、環境行動論、地域施設整備論、建築設計マネジメント論、都市デザイン論、共生都市環境論、共生環境デザイン論 【CSCD開講科目】（各科目2単位） リノベーションまちづくりデザイン、交通まちコミュニケーション概論		
ホームページ・ 問い合わせ先等	工学研究科地球総合工学専攻 教授 新田保次（にった やすつぐ） nitta@civil.eng.osaka-u.ac.jp 同専攻 助教 猪井博登（いのい ひろと） inoi@civil.eng.osaka-u.ac.jp 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1 TEL：06-6879-7608、7609 FAX：06-6879-7612 URL：http://www.civil.eng.osaka-u.ac.jp/plan/machidukuri/sub-major.htm		
説明会の日程	4月7日(水)14:40～（吹田）コンベンションセンター会議室2		
特記事項	なし		

プログラム名称	環境リスク管理学		
プログラム実施部局	工学研究科		
連携部局	人間科学研究科、経済学研究科、コミュニケーションデザイン・センター		
修了要件単位数	8単位以上		
履修対象者	修士	対象者制限の有無	無
プログラム概要及び教育目標	高度副プログラム「環境リスク管理学」は、学術横断的な分野の講義を通じて、環境リスク管理に関する知識と実践力を獲得させ、環境リスク管理分野における研究者および実務家を養成する教育プログラムである。 温暖化による気候変動への対応、ナノ・化学物質の戦略的管理など、現代社会の急速な高度技術化による社会の変化に伴って生じる環境リスク事象に対して、我々がいかに対応すべきかが今問われている。これらの環境リスクへの対応には総合的かつ分野横断的なアプローチが求められるため、細分化された個別の知識ではなく、俯瞰的視野を持ってリスク感性を研ぎすませることが重要である。本プログラムでは、環境リスク管理の知識と技能、高いリスク感性を持ち、企業と組織および社会において必要とされている実践的人材を養成することを目的としている。 また本プログラムの講義を担う講師人は、実績の多いリスク研究者であり、リスク教育を行える学内教授陣とリスク研究の第一線で活躍する外部講師から構成され、環境リスクに関する実践の現場を体験することができる。		
履修資格・条件	課題対処の方法を専門領域にとらわれず探求し、責任をもって解決に導いていくことのできる柔軟性と意欲を持った人を歓迎する。		
修了要件	履修8単位のうち4単位以上は修士課程修了要件以外の単位として履修する必要があります。		
ホームページ・問い合わせ先等	大阪大学大学院工学研究科附属SDオンサイトセンター ○環境リスク管理学プログラム事務局 担当：加藤 悟(かとう さとる)、織田 朝美(おりた あさみ) 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1 大阪大学工学部環境工学棟(S4) TEL: 06-6879-7407 FAX: 06-6879-7407 E-mail: risk-office@orcsd.eng.osaka-u.ac.jp http://risk.see.eng.osaka-u.ac.jp/index.html		
説明会の日程	☆平成22年4月7日(水)10:00～ (豊中)基礎工学部国際棟Σ(シグマ)ホール ☆平成22年4月7日(水)14:40～ (吹田)コンベンションセンター2F会議室		
特記事項	「環境リスク管理学」の各講義のシラバスはKOANまたは上記URLでご覧いただけます。また、各講義の開講場所、講義日程は事務局HP (http://risk.see.eng.osaka-u.ac.jp/index.html)にてご確認下さい。		

プログラム名称	高度溶接技術者プログラム		
プログラム 実施部局	工学研究科		
連携部局	—		
修了要件単位数	10単位以上		
履修対象者	修士 及び 博士	対象者制限 の有無	無
プログラム概要 及び教育目標	溶接技術は、素材から製品の組み立てに至るものづくり基盤技術の中核として、あらゆる製造分野で活用されています。溶接の原理は、アークやレーザなどの熱源によって、材料局部を溶かしてつなぐことですが、急速な加熱・冷却は溶接部分の強度や耐食性などを劣化させ、同時に変形や残留応力発生の原因にもなります。 したがって、製品品質や安全性を確保するためには、溶接の前後工程の適切な処理や品質検査を実施する必要があります。溶接技術は未だ完成された技術ではなく、製品に応じた適正な溶接継手をつくるためには、溶接施工に関わる技術者の知識・経験が不可欠であることが、国際標準 ISO14731「溶接技術者の任務と責務」にも明記されています。 本プログラムでは、ものづくり分野で必要とされている高度溶接技術者の育成に向けて、溶接プロセス・機器、材料・溶接性、溶接構造物の力学、溶接施工管理に関する知識を修得できるよう体系化しています。		
履修資格・条件	なし		
修了要件	本プログラムの科目から 10 単位以上。ただし、溶接プロセス学特論、ジョイニングプロセス特論Ⅱ、構造化設計学、溶接施工管理論Ⅰの 4 科目 8 単位は必修。		
ホームページ・ 問い合わせ先等	http://www.mapse.eng.osaka-u.ac.jp/mmsiwe/index.html 工学研究科マテリアル生産科学専攻 教授 平田 好則 hirata@mapse.eng.osaka-u.ac.jp TEL:06-6879-7554 同専攻 助教 高原 渉 takahara@mapse.eng.osaka-u.ac.jp TEL:06-6879-4447		
説明会の日程	説明会の日程・場所は、決まり次第、ホームページ等で通知します。		
特記事項	本プログラムを修了したのち、製造業に就職し、溶接・生産関連技術者としての経験を 4 年以上つむとともに、より実際的な知識の修得に努めると、53ヶ国が加盟している国際溶接学会(IIW)から発行され、世界に通用する国際溶接技術者(International Welding Engineer)IWE ディプロマ資格の取得につながります。 授業のなかで一部、実習・演習を学外で行う場合があります。		

プログラム名称	学際光科学		
プログラム 実施部局	工学研究科		
連携部局	基礎工学研究科、理学研究科		
修了要件単位数	8単位以上		
履修対象者	修士 及び 博士	対象者制限 の有無	無
プログラム概要 及び教育目標	光科学は情報探索手段としてだけではなく、エネルギー創生、通信、デバイス、加工、医療などの分野で重要な役割を担っています。そのため、光科学は様々な分野、コミュニティとの連携が可能な学際型科学としての性質があります。一方、大阪大学では基礎研究から産業応用に至る各分野で、光に関する優れた研究が数多く行われています。本プログラムではこの特色を生かして、光科学の学際的専門性を身につけるための授業科目を提供します。さらに、研究開発のブレイクスルーに関する講演やそのためのコミュニケーション力、リーダーシップ力などに関する授業科目も取り入れています。 本プログラムは光科学に関する幅広い専門性を有し、複眼的な視野から光科学の研究開発のブレイクスルーを成し遂げられる研究者および職業人の育成を目標とします。		
履修資格・条件	なし		
修了要件	本プログラムの定めるカテゴリ「先端光」、「光物性」、「ナノフォトニクス」、「パワーフォトニクス」、「光の応用」、「計測・分光」、「社会人基礎力」のうち、2つ以上のカテゴリ（「社会人基礎力」は除く）から合計8単位以上の単位を修得することとします。		
ホームページ・ 問い合わせ先等	光科学センター 担当：安食 博志（あじき ひろし） 工学研究科 E 棟412号室 内線4453 柴田 一範（しばた かずのり） 同上 E 棟312号室 内線7987 メールアドレス：ppc@ppc.osaka-u.ac.jp ホームページ：http://www.ppc.osaka-u.ac.jp/fuku-pro/index.html 電子メールの際には、必ず所属研究科・専攻・研究室名を記載して下さい。		
説明会の日程	（豊中）基礎工学部国際棟Σ（シグマ）ホール 平成22年4月7日（水）10:00～ （吹田）コンベンションセンター会議室2 平成22年4月7日（水）14:40～ 詳しくは上記ホームページにて掲載します。		
特記事項	複数年度にまたがる履修、博士前期課程と後期課程にまたがる履修を認めます。		

プログラム名称	光通信及びフォトニックネットワーク工学		
プログラム実施部局	工学研究科		
連携部局	－		
修了要件単位数	8単位以上		
履修対象者	修士	対象者制限の有無	有
プログラム概要及び教育目標	[概要] EUのエラスムス・ムンデウスプログラムに基づき、EUの3大学、聖アンナ高等大学、ベルリン工科大（独）、アストン大（英）と共に、大学院前期課程における光通信工学および光ネットワーク工学分野のプログラム MAPNET (Masters on Photonic NETworks Engineering)コースを受講する本学前期課程学生に対して副プログラムを提供するものであります。 [教育目的] MAPNETは光通信工学および光ネットワーク工学分野において、世界最高水準の研究教育実績を誇る4大学がカリキュラムを提供することにより、高等教育のレベルアップを諮り、EUと日本の域外の交流をととした知的相互理解を深めることが目的である。本副プログラムでは、参加する本学前期課程学生に対して3つの演習科目群を提供し、EU大学におけるエラスムス・ムンデウスMAPNETコースの履修認定をもって副プログラム履修の認定を行います。		
履修資格・条件	エラスムス・ムンデウスプログラム MAPNET (Masters on Photonic NETworks Engineering)コースへ応募し選抜された有資格者に限ります。		
修了要件	学生は少なくとも2つ以上の連携参加大学において研究活動を行うことが要求されている。学生は自身の希望によりそれらの研究活動拠点を選択し移動することが許されている。 本プログラムの修了は、少なくとも2つ以上の連携参加大学において、MAPNETコースを修了する必要があります。		
ホームページ・問い合わせ先等	http://mapnet.sssup.it/ 工学研究科電気電子情報工学専攻 丸田章博 准教授：maruta@comm.eng.osaka-u.ac.jp 吉田 悠来 助教：yuki@comm.eng.osaka-u.ac.jp		
説明会の日程	－		
特記事項	本修士コースは専従課程と捉えられるものであり、2009－2013年度エラスムス・ムンデウス・プログラム・ガイドに基づいて設立された欧州委員会の規定条項に厳密に従うこととなっています。		

プログラム名称	認知脳システム学		
プログラム実施部局	基礎工学研究科		
連携部局	工学研究科, 人間科学研究科, 医学系研究科		
修了要件単位数	10単位以上		
履修対象者	修士 及び 博士	対象者制限の有無	無
プログラム概要及び教育目標	本プログラム「認知脳システム学」は、人間の高度認知機能（認知脳）の理解とそれに基づく情報・機械システム開発の方法論を教示することを目的としています。基礎工学研究科と工学研究科, 人間科学研究科, そして医学系研究科が連携することで、学生の学際的研究能力を育成し、新しい研究や産業を自ら発案、実施できる能力を育てることを目指します。 基礎工学研究科と工学研究科では、認知脳を構成的に理解することを目的に、生物の脳や身体、知覚機能の役割を工学的立場から考察し、またそれらをロボットシステムとして実現するのに必要な基礎技術についての講義を提供します。人間科学研究科では、人間の記憶や推論といった認知脳の問題、またそれらを解明する心理学実験手法について講義します。医学系研究科では、認知機能を計測する手段としての脳イメージング技術や、その他の画像医学技術についての講義を行います。受講学生は、これらの学際的な講義を通して、新たな研究領域である認知脳システム学を推進する能力を養うことができます。また、講義の多くが英語で行われることから、国際性の向上も期待されます。		
履修資格・条件	なし		
修了要件	本プログラムの科目から必修科目4単位を含む10単位以上を修得することとします。		
ホームページ・問い合わせ先等	ホームページ: http://www.es.osaka-u.ac.jp/index.html http://www.gcoe-cnr.osaka-u.ac.jp/ 問い合わせ先: 基礎工学研究科大学院係 06-6850-6146 ki-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp		
説明会の日程	基: 4月7日(水) 新入生ガイダンスにて実施 医: 4月6日(火) 10時～ 講義棟第2講義室 人科(1年生対象): 4月6日(火) 14時～ 第51講義室 人科(上記以外): 4月6日(火) 15時～ 第11、31、41、44、404各講義室 情: 4月9日(金) 13時30分～ コンベンションセンターMOホール		
特記事項	なし		

プログラム名称	言語情報処理の手法と展開																						
プログラム 実施組織	言語文化研究科 言語文化専攻																						
修了要件単位数	8単位以上																						
履修対象者	修士 及び 博士	対象者制限 の有無	無																				
プログラム概要 及び教育目標	情報メディアとしてのパーソナルコンピュータ、インターネットの普及により、文書・資料の電子化が急速に進み、電子テキストの量は爆発的に増大しています。これにともない、膨大な自然言語データの中から有益な情報を効率的に抽出するための情報マイニング技術の開発が学界のみならず産業界においても求められています。大規模な自然言語データを分析・活用するためには、従来の言語学、文献学の理論・方法論に加え、情報工学、統計数理学、行動科学など関連領域の知見を統合した学際的なアプローチが必要となります。 そこで、本プログラムでは、自然言語処理とコーパス言語学研究を二本の柱として、それぞれの基礎理論と応用実践の方法論を有機的に組み合わせて教授します。自然言語処理では、情報工学の基礎理論から、形式言語理論や形式論理に基づいた統語処理・意味処理・談話処理について学びます。さらに、自然言語処理モデルを計算機に実装するためのプログラミングや、言語処理ツールを駆使する技法を習得します。コーパス言語学研究では、コーパスデザインに関する理論や、TEI (Text Encoding Initiative: 言語データ電子化のため国際共通規格)、言語データ解析のための統計数理モデルに関する講義を行うとともに、実践的なコーパス分析の演習を行います。当プログラムが提供するコースワークを通して、受講生は、膨大な自然言語データの中から自分や社会のニーズに合致した情報の鉱脈を掘り当て活用する高度な情報マイニング能力を修得できるでしょう。																						
履修資格・条件	なし																						
修了要件	自然言語処理A・Bから2単位以上及びコーパス言語学研究A・Bから2単位以上を取得すること。																						
ホームページ・ 問い合わせ先等	言語文化研究科大学院係(豊中キャンパス) TEL 06(6850)5856 メールアドレス in@lang.osaka-u.ac.jp																						
特記事項	本プログラムの申請様式は(http://www.lang.osaka-u.ac.jp/)からダウンロードが可能です。 プログラムに該当する授業の内容は、KOANのシラバスと各授業の第1回目にガイダンスがありますので、それを参考にしてください。 なお、該当授業と講師、その第一回目の授業日・場所()の予定は以下のとおりです。 <table border="0"> <tr> <td>自然言語処理A</td><td>林 良彦</td><td>月曜5限</td><td>4/ 12 (第4演習室)</td></tr> <tr> <td>自然言語処理B</td><td>林 良彦</td><td>月曜5限</td><td>10/ 4 (第4演習室)</td></tr> <tr> <td>コーパス言語学研究B</td><td>岩根 久</td><td>月曜2限</td><td>10/ 4 (映像情報処理システム室)</td></tr> <tr> <td>コーパス言語学研究A</td><td>田畑智司</td><td>水曜5限</td><td>4/14 (言語情報科学講座LLシステム室)</td></tr> <tr> <td>コーパス言語学研究B</td><td>田畑智司</td><td>水曜5限</td><td>10/6 (言語情報科学講座LLシステム室)</td></tr> </table>			自然言語処理A	林 良彦	月曜5限	4/ 12 (第4演習室)	自然言語処理B	林 良彦	月曜5限	10/ 4 (第4演習室)	コーパス言語学研究B	岩根 久	月曜2限	10/ 4 (映像情報処理システム室)	コーパス言語学研究A	田畑智司	水曜5限	4/14 (言語情報科学講座LLシステム室)	コーパス言語学研究B	田畑智司	水曜5限	10/6 (言語情報科学講座LLシステム室)
自然言語処理A	林 良彦	月曜5限	4/ 12 (第4演習室)																				
自然言語処理B	林 良彦	月曜5限	10/ 4 (第4演習室)																				
コーパス言語学研究B	岩根 久	月曜2限	10/ 4 (映像情報処理システム室)																				
コーパス言語学研究A	田畑智司	水曜5限	4/14 (言語情報科学講座LLシステム室)																				
コーパス言語学研究B	田畑智司	水曜5限	10/6 (言語情報科学講座LLシステム室)																				

〔注〕 第4演習室は(508 室)は言語文化研究科棟(新棟)5階、映像情報処理システム室は6階(607 室)、言語情報科学講座 LL システム室(307 室)は言語文化研究棟(旧棟)3階です。

プログラム名称	グローバルリーダーシップ・プログラム		
プログラム実施部局	国際公共政策研究科		
連携部局	—		
修了要件単位数	8単位以上		
履修対象者	修士 及び 博士	対象者制限の有無	無
プログラム概要及び教育目標	グローバルリーダーシップ・プログラムでは、連携分野を通じた社会学連携を最大限に活用しつつ、国際機関、行政機関、外交、政治、企業、NGOで実際にリーダーとして活躍してきた人材を講師に迎え、対話的授業(ソクラテックメソッド)、ケーススタディやインターンシップ、合宿および他大学との合同模擬事例演習などの伝統的教育方法と、音楽や伝統芸、演劇を利用した新しい刺激的な学習方法とを併用し、リーダーシップや交渉に関する理論と実践を身につけることを目的とします。よき交渉やリーダーシップのためには継続的練習(習慣づけ)が必要であるので、将来的には卒業生や一般市民に対しての継続的な教育プログラムも提供する予定です。 このプログラムは、法学、政治学、経済学など公共政策に関わる学問を主たる専門分野とするかまたは公共政策に関心のある学生が、環境、開発、人権や国際紛争など、国境を越える公共価値を実現し、公共に関わる困難な問題を解決することができるように、人びとに気づきと学習をうながすような「アートArt」としてのコミュニケーションとリーダーシップを教育することを目標とします。		
履修資格・条件	科目によっては、事前課題の提出、受講者人数の上限が定められる場合があります、正当な理由なく遅刻欠席をしないことが単位取得要件とされる場合があります。 それぞれの科目ごとの受講要件は、シラバスを参照してください。		
修了要件	必修科目「リーダーシップを考える」及び「実践グローバルリーダーシップ」を履修すること		
ホームページ・問い合わせ先等	国際公共政策研究科(OSIPP)GLP事務局(野村研究室) 【E-mail】glp@osipp.osaka-u.ac.jp (GLP事務局) 【TEL】06-6850-5629(直通) 【FAX】06-6850-5656(研究支援室)		
説明会の日程	決定次第 KOAN の掲示板で通知します。		
特記事項	2学期開講の「実践グローバルリーダーシップ」の履修のためには、1学期開講の「リーダーシップを考える」の受講をすすめます。1 学期開講集中講義「リーダーシップデザイン」の受講者にも、「リーダーシップを考える」の受講をすすめます。 その他については各講義のシラバスを参照してください。		

プログラム名称	IT Spiral		
プログラム実施部局	情報科学研究科		
連携部局	—		
修了要件単位数	14単位以上		
履修対象者	修士	対象者制限の有無	有
プログラム概要及び教育目標	ITSpiralは、世界最高水準のソフトウェア技術者育成システムの構築を目的とする「文部科学省：先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」の一環として、平成18年10月からスタートしたプロジェクトです。 ITSpiralでは、情報通信技術、特にソフトウェアの高度な技術者育成を目指しています。この実現のために、ソフトウェア分野で修得すべき内容をより豊かかつ体系的・実践的に教育課程に取り組むべく、関西圏の9大学情報系研究科に分散している卓越した専門家群の力を集結し、融合連携型の専攻を構築しています。また、実践的教育を重視しており、高度な技術力を持つ企業と協働することにより、現実の開発プロジェクトを教材とした教育を実現しています。 ITSpiralを通じて高い能力を有するソフトウェア技術者を育成していくことにより、幅広いソフトウェア設計の知識を持ち、実践的な開発演習を経験した修士課程学生を継続的に輩出することができますし、また、日本のソフトウェア産業の競争力向上にも貢献しています。 授業は、基礎科目（2科目4単位以上を修得）、先端科目（2科目4単位以上を修得）、実践科目（全科目＝3科目6単位）から構成されます。		
履修資格・条件	博士前期課程1年生（他学年の希望者はIT Spiral事務局まで問い合わせてください）※応募者が多数の場合は、情報科学研究科 ITSpiral 事務局で選考し、受講者を決定します。 先端科目、実践科目については、ITSpiral プログラムに選ばれた学生のみ受講が認められます。なお、先端科目、実践科目はそれぞれ単独で受講することはできませんので、注意してください。		
修了要件	基礎ソフトウェア工学科目 2科目4単位以上 先端ソフトウェア工学科目 全科目（2科目4単位） 実践ソフトウェア開発科目 全科目（3科目6単位） 計14単位以上修得すること。		
ホームページ・問い合わせ先等	IT Spiral 事務局 電話 :06-6879-4104Fax :06-6879-4109 e-mail: info-it-spiralist.osaka-u.ac.jp http://it-spiral.ist.osaka-u.ac.jp/		
説明会の日程	平成22年4月9日（金） 大学院情報科学研究科入学ガイダンス 但し、他研究科の学生は、IT Spiral 事務局に問い合わせてください。		
特記事項	基礎科目、先端科目、実践科目、その他詳細については、IT Spiral のパンフレットを参照してください。（パンフレットは IT Spiral 事務局にあります。）		

プログラム名称	高度情報ネットワーク実践スペシャリスト		
プログラム実施部局	情報科学研究科		
連携部局	—		
修了要件単位数	8単位以上		
履修対象者	修士	対象者制限の有無	無
プログラム概要及び教育目標	高度副プログラム「高度情報ネットワーク実践スペシャリスト」は、大阪大学の大学院生に対して、情報ネットワークに関する高度で実践的な教育プログラムを提供するものです。本プログラムは、高度な情報ネットワークの基盤技術やサービス技術の教育を提供し、情報ネットワーク分野における実践的なソフトウェア開発等も可能なスペシャリスト養成を目的とします。本プログラムでは、以下のような先進的なネットワーク技術に関する教育を提供します。 － 超高速ネットワーク構成技術 － マルチメディアネットワーク技術 － モバイル通信プロトコル技術 － 情報流通プラットフォーム技術 － ネットワークソフトウェア技術 － ネットワークプログラミング技術 － ネットワーク分析技術 なお、本プログラムは、本研究科が実施してきた大学院教育イニシアティブ「ソフトウェアデザイン工学教育プログラム」を発展させたプログラムのひとつでもあります。		
履修資格・条件	なし		
修了要件	指定された授業科目より 8 単位以上を修得してください。また、「実践エンタープライズシステム開発」または「実践組込み開発」のいずれかを必ず修得してください。		
ホームページ・問い合わせ先等	大学院情報科学研究科 情報ネットワーク学専攻 大崎 博之 准教授 Tel: 06-6879-4551, Fax: 06-6879-4554 E-mail: oosaki@ist.osaka-u.ac.jp		
説明会の日程	平成22年4月9日(金) 大学院情報科学研究科 専攻別ガイダンス なお、他専攻・他研究科の学生は、問い合わせ先に連絡してください。 個別に対応します。		
特記事項	なし		

プログラム名称	感染症学免疫学融合プログラム		
プログラム実施部局	微生物病研究所		
連携部局	医学系研究科・免疫学フロンティア研究センター		
修了要件単位数	8単位		
履修対象者	博士	対象者制限の有無	無
プログラム概要及び教育目標	新型インフルエンザといった新興感染症や社会的に影響の大きいAIDSやマラリア等の感染症の治療法の開発には、宿主側の免疫応答の理解が欠かせません。また、近年、常在微生物による免疫系に対するインパクトが自己免疫疾患の発症に大きく寄与していることも分かってきており、こうした免疫系疾患の治療法の開発には微生物と宿主の相互作用の理解が不可欠です。こうした背景から、従来別個の学問として発展してきた感染症学と免疫学の両方に精通している研究者の育成が重要な課題となってきています。 本高度副プログラムでは、そのような研究者の養成を目指して、微生物病研究所・免疫学フロンティア研究センター・医学系研究科という感染症学、免疫学のトップレベルの研究者が多数集積している有利な環境を最大限に生かした教育を行います。感染症学と免疫学の分野の第一線の講師陣が、(1) 基本概念のレクチャーと(2) 関連する領域の重要な文献に関するディスカッションという2つを1ユニットとして、プログラムを展開し、この領域で、指導的な役割を果たせる研究者の育成を実践的にを行います。 授業科目 ・感染症学免疫学融合プログラム1 4単位 通年 偶数年度のみ開講 ・感染症学免疫学融合プログラム2 2単位 1学期 奇数年度のみ開講 ・アドバンスプログラム1 1単位 通年 偶数年度のみ開講 ・アドバンスプログラム2 1単位 通年 奇数年度のみ開講		
履修資格・条件	・広く生物学・医学の研究に携わっている大学院博士(後期)課程学生。		
修了要件	・本プログラムは2年間の課程です。 ・感染症学免疫学融合プログラム2の受講は、感染症学免疫学融合プログラム1を履修していることを前提とします。 ・感染症学免疫学融合プログラム1、2及びアドバンスプログラム1、2は全て必修であり、これらの科目8単位を全て取得することを修了の要件とします。		
ホームページ・問い合わせ先等	大阪大学微生物病研究所 感染症学免疫学融合プログラム推進室 E-mail: suishin@biken.osaka-u.ac.jp Tel: 06-6879-8358 Fax: 06-6879-8358		
説明会の日程	決定次第 KOAN の掲示板で通知します。		
特記事項	なし		

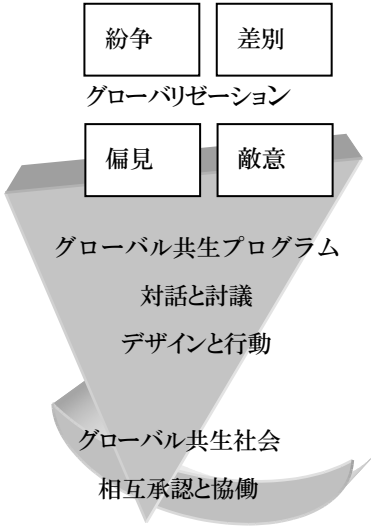
プログラム名称	インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践		
プログラム 実施部局	留学生センター		
連携部局	言語文化研究科		
修了要件単位数	8単位以上		
履修対象者	修士 及び 博士	対象者制限 の有無	無
プログラム概要 及び教育目標	グローバル化、ボーダレス化の進展に伴い、言語や文化を必ずしも共有しない人々の間でのコミュニケーションの必要性が大いに高まっています。こうした「インターカルチュラル・コミュニケーション」は、多様な価値観や思考様式への気づきを促す契機となる一方で、様々な誤解や対立を引き起こす場合もあります。本プログラムでは、現代社会の多言語・多文化化の現状やインターカルチュラル・コミュニケーションに関する基礎理論を学ぶと同時に、実際のインターカルチュラル・コミュニケーション場面で生じる問題への対処方法について、実践的な課題を通じて考えます。これらの過程を通じて多様性への自覚を促し、地球市民としての知恵と態度を涵養することが本プログラムの目標です。 なお、受講する科目を選択するにあたっては、KOANIに掲載されるシラバスを熟読してください。提供科目の中で、「音声言語コミュニケーション」、「書記言語コミュニケーション」に関心がある人は、それぞれ「言語コミュニケーション論A・B」、「言語技術研究A・B」、を受講することを勧めます。また、「言語政策」や「政治と社会」に関心を持つ人は、「言語文化教育論A・B」、「言語文化政策論A・B」を受講することを勧めます。		
履修資格・条件	なし		
修了要件	対象科目を履修して8単位以上取得すること。		
ホームページ・ 問い合わせ先等	http://www.isc.osaka-u.ac.jp 学生交流推進課 (kokusai-gakusei-ryugakusei@office.osaka-u.ac.jp, 内線 3127 又は 06-6879-7118)		
説明会の日程	対象科目の最初(および2週目)の授業の際、各担当者が説明します。		
特記事項	どの授業においても、受講者同士のディスカッションを歓迎します。また、このプログラムは、基本的に、専門分野が異なる受講者がともに学ぶ場を提供します。受講者は自身の専門分野について、他の受講者に対し、可能な限り明確に、かつ 平易に説明することが求められます。		

プログラム名称	臨床医工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム:専門科		
プログラム実施部局	大阪大学臨床医工学融合研究教育センター		
連携部局	・医学系研究科 ・歯学研究科 ・薬学研究科 ・工学研究科 ・基礎工学研究科 ・情報科学研究科 ・大学教育実践センター ・コミュニケーションデザイン・センター		
修了要件単位数	9単位以上		
履修対象者	修士 及び 博士	対象者制限の有無	無
プログラム概要及び教育目標	高度先進医療福祉社会を築くことは、我が国の緊急課題です。そのためには、新規融合科学である「臨床医工学・情報科学融合領域」の社会に適合した発展が必須であり、決定的に不足しているこの領域の人材を育成することが急務です。 本プログラムは、大学院博士課程学生を対象に、最先端の工学・情報科学と医学・医療の双方に精通し、社会ニーズ・医療ニーズ・患者ニーズを理解した医療技術者など、この領域の高度技術者を育成することを目的とします。具体的には、次の3つの専門コースと1群の共通科目、および入門科目を設定し、必要なカリキュラムを専門コースごとに構成します。 (1) バイオメディカルインフォマティクスコース (2) バイオマテリアル学コース (3) 高度診断治療工学コース		
履修資格・条件	なし		
修了要件	①1つのコースの中から、講義科目8単位以上、および ②演習科目から1単位以上を修得すること。ただし、①については、8単位のうち4単位以上は所属研究科外(医学系研究科においては医科学専攻と保健学専攻は別研究科とみなします。)の講義科目とします。入門科および共通科の授業科目については、コース修了要件としてはそれぞれ2単位までを認定します。		
ホームページ・問い合わせ先等	詳細はMEIセンターホームページをご覧ください。 http://www.mei.osaka-u.ac.jp		
説明会の日程	毎年4月中旬と9月下旬に履修説明会を行っています。日程が決まり次第、ホームページ等でお知らせします。		
特記事項	なし		

プログラム名称	臨床医工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム：高度職業人育成科		
プログラム実施部局	大阪大学臨床医工学融合研究教育センター		
連携部局	・経済学研究科 ・医学系研究科 ・薬学研究科 ・コミュニケーションデザイン・センター		
修了要件単位数	(1)クリニカルリサーチプロフェッショナル育成コース：10単位以上 (2)分子イメージング創薬プロフェッショナル育成コース：11単位以上 (3)予測社会医学プロフェッショナル育成コース：11単位以上		
履修対象者	修士 及び 博士	対象者制限の有無	無
プログラム概要及び教育目標	臨床医工学・情報学分野の職業のプロフェッショナル教育を目指し、次の3つのコースを構成します。 (1) クリニカルリサーチプロフェッショナル育成コース 「患者からはじまる医療」の確立を志向し、高い倫理観とコミュニケーション力、高度の専門的知識と技能、豊富な経験と実践力を兼ね備え、質の高い臨床研究を計画・遂行できる、良質な臨床研究専門家（臨床試験専門医、医学統計家、データマネージャー、臨床研究コーディネーターなど）の育成を目標とします。さらに、国際共同臨床試験への参画などを踏まえて、人材の国際性についても配慮し、これらの教育・指導にあたる担当者の育成を目標とします。 (2) 分子イメージング創薬プロフェッショナル育成コース 医学、歯学、薬学、理学、工学、情報科学の学術的複合領域である分子イメージングの分野において、先端的知識を活用できる研究者、医師、歯科医師、薬剤師、医療技術者、企業研究者、治験計画立案者などを養成すると共に、プロフェッショナルな人材育成を目的とします。 (3) 予測社会医学プロフェッショナル育成コース 医療環境を改善するために新しいシステムを適用しようとするとき、システム導入による影響をシミュレーションし、その結果をふまえてシステムを修正し、現場に応用します。さらにはシステム運用の結果として生じた影響を検証し問題点を克服するためのシステム修正を行います。このようなプロセスが、より良い医療システムの構築には必須です。このコースでは、公衆衛生学・実験経済学・基礎統計学を基本的に理解し、それらを融合した医療経済学を、実践的研究を通じて学ぶ場を提供します。		
履修資格・条件	なし		
修了要件	(1) クリニカルリサーチプロフェッショナル育成コース 基礎コア科目から6単位、専門コア科目から4単位以上の10単位以上を修得すること。副科目は修了要件に含めないが、コースの内容に関連するので、必要に応じて履修すること。 (2) 分子イメージング創薬プロフェッショナル育成コース 必修科目7単位、選択科目から4単位以上の11単位以上を修得すること。 (3) 予測社会医学プロフェッショナル育成コース 必修科目7単位、選択科目から4単位以上の11単位以上を修得すること。		
ホームページ・問い合わせ先等	詳細はMEIセンターホームページをご覧ください。 http://www.mei.osaka-u.ac.jp		
説明会の日程	毎年4月中旬と9月下旬に履修説明会を行っています。日程が決まり次第、ホームページ等でお知らせします。		
特記事項	なし		

プログラム名称	コミュニケーションデザイン		
プログラム実施部局	コミュニケーションデザイン・センター		
連携部局	文学研究科、人間科学研究科		
修了要件単位数	8単位以上		
履修対象者	修士 及び 博士	対象者制限の有無	無
プログラム概要及び教育目標	本プログラムは、文系、理工系、医科学系の大学院生の混成による教育を基本とし、異なる専門性のあいだの相互理解、自らの専門性の特質の理解、社会とのコミュニケーションの必要性の理解の獲得を目指します。またプログラムを通じて、インタラクティブな講義や実習、各種ワークショップ形式を組み込み、座学による知識の習得とは異なる観点からの教育を行います。		
履修資格・条件	なし		
修了要件	本プログラム修了には、基礎科目・選択必修科目・発展科目の3段階で構成される8単位以上の取得が必要です。基礎科目は「メディア技法と表現リテラシー」(1・2学期開講、2単位)、選択必修科目は CSCD および連携部局(文学研究科・人間科学研究科)が提供する科目の中から4単位以上を履修してください。基礎科目と選択必修科目の合計6単位以上を取得後の次学期から発展科目「領域横断・演劇創造ゼミナール」(1・2学期開講、2単位)を履修できます。 本プログラムの修了に必要な単位と所属専攻の修了に必要な単位との重複が認められるかどうかは、研究科・部局によって異なります。履修希望者は、事前に指導教員や所属研究科の大学院担当窓口に必ず相談してください。		
ホームページ・問い合わせ先等	CSCD ホームページ: http://cscd.osaka-u.ac.jp/ 問い合わせ先: コミュニケーションデザイン・センター事務部 教務担当 Tel: 06-6850-6632 E-mail: cscd@office.osaka-u.ac.jp		
説明会の日程	CSCD が提供する科目の第1回目の授業の際に、各担当教員が説明を行います。		
特記事項	なし		

プログラム名称	金融・保険		
プログラム実施部局	金融・保険教育研究センター(CSFI)		
連携部局	基礎工学研究科、理学研究科、経済学研究科、情報科学研究科		
修了要件単位数	8科目以上(16単位相当以上) [下記の修了要件、特記事項参照]		
履修対象者	スタンダード・プログラム: 修士 及び 博士 アドバンスト・プログラム: 博士	対象者制限 の有無	無
プログラム概要 及び教育目標	大阪大学金融・保険教育研究センター(CSFI)は、文部科学省特別教育研究経費(連携融合)に採択された“新領域分野「金融・保険科学」に関する文理融合型教育プログラムの開発”の実施母体として、2006年4月に発足しました。 極めて高度化・複雑化した金融・経済システムにおいて求められる、金融・保険に関わる学際的分野でのスペシャリストを育成することを目標にし、基礎工学研究科、経済学研究科、理学研究科、情報科学研究科の4研究科を学内設立母体とし、多くの民間および公的な金融機関を連携協力機関の支援のもと提供する文理融合型教育プログラムです。修士課程レベルに対応する[S]スタンダード・プログラムと博士課程レベルに対応する[A]アドバンスト・プログラムを持ち、さらにそれらは、それぞれ(M)数理計量ファイナンスコース、(E)金融経済・工学コース、(I)インシュアランス・コースの3つのコースに分かれ、最先端の学術的発展をも踏まえた教育に加え、実務家教員による実務教育にも力を入れています。 また、CSFIにおける開講科目は大阪大学の大学院在学生在が受講できるほか、金融・保険の知識・スキルの修得を目差す社会人向けに、社会人再教育プログラム「科目等履修生」用カリキュラムとしても開放されています。		
履修資格・条件	大阪大学内のいずれかの大学院の博士前・後期課程に在学する者。		
修了要件	上記の3つのコースごとに、各科目を基礎科目、専門科目、特別科目に分類しており、2種プログラムの修了要件はそれぞれ以下のとおりです。各コースの科目の分類については、CSFIの教育プログラム便覧をご覧ください。 スタンダード・プログラム: 必修科目をすべて含み、基礎科目2科目以上、専門科目4科目以上、計8科目以上。 アドバンスト・プログラム: 特別科目6科目以上、計8科目以上。		
ホームページ・問い合わせ先等	宛先: 大阪大学 金融・保険教育研究センター(CSFI) 所在地: 〒560-8531 大阪府豊中市待兼山町1-3 Phone: (06) 6850-6091 FAX: (06) 6850-6092 ホームページ: www-csfi.sigmath.es.osaka-u.ac.jp E-mail: csfi-questions@sigmath.es.osaka-u.ac.jp		
説明会の日程	平成22年度の説明会・オリエンテーションを 4月12日(月)午後6時～、豊中キャンパス法経講義棟1階第1講義室にて開催いたします。		
特記事項	1・2学期とも、エントリー・出願、履修登録は所定の期間内にKOANIによって受け付けます。その際、CSFI作成の冊子(パンフレット、教育プログラム便覧)および上記ホームページに重要な情報が掲載されていますので、ご参考にさせていただきます。また、休講・補講、集中講義の日程等の最新の情報につきましても、ホームページにご注意ください。		

プログラム名称	グローバル共生		
プログラム実施組織	グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)		
連携部局	人間科学研究科、法学研究科、言語文化研究科、国際公共政策研究科、コミュニケーションデザイン・センター		
修了要件単位数	10単位以上		
履修対象者	修士 及び 博士	対象者制限の有無	無
プログラム概要及び教育目標	グローバル共生社会とは、異なる文化、言語をもつ人々が相互に承認しあい共存することが可能になっている社会のことをさします。グローバル化が進めば、共生社会の到来は当たり前になるのでしょうか。民族、言語、宗教の違いによる紛争や差別が思い起こされるように、グローバル共生は自然に生まれるよりも、人々の努力を通して実現される必要があるようです。言語や文化が異なる集団が、どのようなプロセスを経て違いを認識し、それぞれの文化に対して対等に敬意をもって接することはできるのでしょうか。これまでの人類社会のさまざまな経験や教訓、それも良いことばかりではなく重く苦しいものも含めた事象から多角的に学ぶ必要がありそうです。 グローバル共生プログラムは市民や何らかの専門的知性や技能をもった人たちが社会という現場で、さまざまな利害を超えて協働しグローバル共生社会のデザインを描くための理論と実践方法について学ぶプログラムです。参加型・対話型・現場でのトレーニング型(OJT)などの新しい教育手法を通して市民と専門家が対話や討議を通して協働することの重要性について、現場に出かけたり実習したりするなかで、身体を動かしながら学ぶことを主眼としています。高邁な理念や理想の学習だけでなく、現実の行動原理に結びつき、具体的な成果を生むための一歩を踏み出す学生への後押しが本プログラムの目的です。 		
履修資格・条件	資格や条件はありません。理系・文系を問わず、全学からの参加を歓迎します。これまで多文化共生についてあまり意識してこなかった人、グローバル共生という視点から自分の生き方をとらえなおそうと考えている人を歓迎します。「足もとの国際化」に興味をもち社会貢献をめざす学生、将来国際協力など現場で働くことを希望する学生にも向いたプログラムです。		
修了要件	本プログラムが指定する必修科目(6単位)と選択科目を合わせて10単位以上修得することとします。		
ホームページ・問い合わせ先等	グローバルコラボレーションセンター Tel. 06-6879-4442 Fax. 06-6879-4444 E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/		
説明会の日程	合同ガイダンス 平成22年4月7日(水)午前10:00～ (豊中)基礎工学部国際棟 Σ(シグマ)ホール 平成22年4月7日(水)午後2:40～ (吹田)コンベンションセンター2F会議室 (その他の説明会は、日程が決まり次第ウェブサイトに掲載いたします。)		
特記事項	なし		

プログラム名称	人間の安全保障と開発（旧 人間の安全保障・社会開発）		
プログラム 実施組織	グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)		
連 携 部 局	人間科学研究科、経済学研究科、医学系研究科、工学研究科、薬学研究科 国際公共政策研究科、大学教育実践センター、コミュニケーションデザイン・センター		
修了要件単位数	8単位以上		
受講対象者	修士 及び 博士	対象者制限 の有無	無
プログラム概要 及び教育目標	現在、世界の多くの地域で、紛争や貧困などによって人々の生活が脅かされています。これらの問題の解決には、各国政府、国際機関、NGOsなどが国境を越えて積極的に活動を展開しています。本プログラムでは、紛争や貧困、そしてそれらに付随する様々な問題を読み解き、そして各々の専門知識を生かしながら、その解決に能動的に関わることでできる人材の育成を目的とします。そのためには、受講生各々の専門分野の知識に加え、人間の安全保障と開発という視点が有効です。本プログラムは、必修科目で、人間の安全保障と社会開発、そして、紛争と平和構築に関する重要な概念、イシュー、事例について概観し、さらに、受講生各々の興味に応じて選択科目を履修するように構成されています。選択科目には国際行政や国際協力に関するものから、環境や保健・衛生まで、理系・文系の枠にとらわれず、幅広く履修できるようになっています。さらに、国際協力の分野で必要ないくつかの地域言語や、フィールドワークのスキルや評価の手法も身につけることができます。 日本人学生・留学生を問わず、将来、国際的な舞台で活躍することを希望している人に役立つよう、英語のみでも修了可能なプログラム構成です。		
履修資格・条件	資格や条件はありません。理系・文系、日本人・留学生を問わず全学からの参加を歓迎します。特に、将来、「開発」や「国際協力」に何らかの形で携わることを希望する学生に向けたプログラムです。（本プログラムは昨年度「人間の安全保障・社会開発」と称した高度副プログラムから名称を変更したものです。昨年度本プログラムの履修を開始した人も修了書は「人間の安全保障と開発」の名称で発行します。）		
修了要件	本プログラムが指定する選択必修科目（2単位以上）と選択科目を合わせて8単位以上修得することとします。選択必修科目は最初に履修してください。		
ホームページ・ 問い合わせ先等	グローバルコラボレーションセンター Tel. 06-6879-4442 Fax. 06-6879-4444 E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/		
説明会の日程	合同ガイダンス 平成22年4月7日(水)午前10:00～（豊中）基礎工学部国際棟 Σ(シグマ)ホール 平成22年4月7日(水)午後2:40～（吹田）コンベンションセンター2F会議室 （その他の説明会は、日程が決まり次第ウェブサイトに掲載いたします。）		
特記事項	なし		

プログラム名称	司法通訳翻訳論		
プログラム実施組織	グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)		
連携部局	人間科学研究科、法学研究科、言語文化研究科		
修了要件単位数	10単位以上		
履修対象者	修士 及び 博士	対象者制限の有無	無
プログラム概要及び教育目標	21 世紀の日本では、日本語を十分に解しないまま、外国人が刑事・民事・家事事件に関わる、あるいは出入国管理や難民認定での手続などに臨む事案が格段に増えています。 司法通訳翻訳とは、上記のような法的場面における実務通訳や翻訳の総称です。具体的には、様々な司法ないしは行政機関や団体などが関与する業務において行われています。 本プログラムは、そういった過程で必要不可欠な通訳翻訳について、特に、法律的手続、司法通訳翻訳人の役割や行動基準、コミュニケーションの3つに関する知識の習得や、スキルの向上の機会を提供し、また、司法通訳翻訳の在り方について考察する場を与えようとするものです。 カリキュラムとしては、実務通訳翻訳の理論・訓練法・職業倫理論などに関する科目群(A)、司法領域の実務や手続に関する科目群(B)、そして特定言語組合せによる通訳翻訳実習の3つの科目群(C)の中から、各自の必要と関心に合わせて履修することができます。		
履修資格・条件	履修資格・条件は特にありません。日本語ともうひとつの言語両方の高度な運用能力があり、上記の領域での実務通訳翻訳に関心のある者を歓迎します。あるいは、法曹三者を目指したり、司法関係の機関で業務につく希望や可能性があったり、通訳を受ける当事者である外国人やその権利について関心のある者などの受講も想定しています。博士前期課程か後期課程かは問いません。		
修了要件	本プログラムで指定された科目群A, B, Cのうち、科目群 A に入る「多文化共生社会論特講Ⅱ」(必修 2単位)及び「多文化共生社会論特定演習Ⅱ」(必修 2単位)を含む、最低 10 単位を履修する必要があります。いくつかの科目については、履修に制限があります。		
ホームページ・問い合わせ先等	グローバルコラボレーションセンター Tel. 06-6879-4442 Fax. 06-6879-4444 E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/		
説明会の日程	合同ガイダンス 平成22年4月7日(水)午前10:00～ (豊中)基礎工学部国際棟 Σ(シグマ)ホール 平成22年4月7日(水)午後2:40～ (吹田)コンベンションセンター2F会議室 (その他の説明会は、日程が決まり次第ウェブサイトに掲載いたします。)		
特記事項	なし		

プログラム名称	現代中国研究		
プログラム実施部局	グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)		
連携部局	法学研究科・文学研究科・経済学研究科・国際公共政策研究科・人間科学研究科・言語文化研究科		
修了要件単位数	8単位以上		
履修対象者	修士 及び 博士	対象者制限の有無	無
プログラム概要及び教育目標	1990年代以降の中国市場の突出した存在感は、中国社会の変容のみならず、中国をとりまく東・東南アジアの政治的、経済的、文化的環境を大きく変容させることとなりました。こうした中国と中国をとりまく国際社会の変化を正しく理解するためには、中国近現代史や国際政治、経済学など複数の視点の獲得と、中国や台湾との国際的な学術交流ネットワークを通じた現象理解が不可欠です。本プログラムは、中国近現代史を基盤としつつ、様々な学問領域の専門家による分野横断的で多角的な対話と、中国、台湾などにおける交流をとりまぜ、中国の政治や経済、文化、さらには日中関係についての受講者の関心にこたえます。 本プログラムには、中国史をはじめとする多様な分野の専門家から現代中国研究に関わる様々な論点を提示していただく「現代中国研究」、受講者がそれぞれのテーマに従って課題探求を行い、プレゼンテーションの技術を学びながら口頭発表する「中国文化コロキウム」(集中)の二つの必修科目に加えて、様々な選択科目が用意されています。		
履修資格・条件	資格や条件はありません。理系・文系を問わず、留学生を含めた全学からの参加を期待しています。中国を研究対象としている人は言うまでもなく、中国研究についてあまり関心をもってこなかった人、中国に関心はあるが中国語に不安を感じている人なども歓迎します。日中関係や東アジアの政治、経済、文化に興味をもつ学生、将来、国際協力など現場やマスメディア、企業などで幅と厚みのある実務家として働くことを希望する学生にも向いたプログラムです。		
修了要件	本プログラムが指定する基礎科目(必修)4単位と選択科目4単位以上を修得することとします。 なおプログラムの修了要件科目が研究科の修了要件科目と重複する場合の必要単位数の計算方法は、それぞれの研究科の履修要件に従うこととします。		
ホームページ・問い合わせ先等	グローバルコラボレーションセンター Tel. 06-6879-4442 Fax. 06-6879-4444 E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/		
説明会の日程	合同ガイダンス 平成22年4月7日(水)午前10:00～ (豊中)基礎工学部国際棟 Σ(シグマ)ホール 平成22年4月7日(水)午後2:40～ (吹田)コンベンションセンター2F会議室 (その他の説明会は、日程が決まり次第ウェブサイトに掲載いたします。)		
特記事項	なし		

プログラム名称	サステイナビリティ学		
プログラム実施部局	サステイナビリティ・デザイン・センター		
連携部局	工学研究科、コミュニケーションデザイン・センター、人間科学研究科、法学研究科、国際公共政策研究科、理学研究科、基礎工学研究科、経済学研究科、医学系研究科		
修了要件単位数	8単位以上		
履修対象者	修士 及び 博士	対象者制限の有無	無
プログラム概要及び教育目標	大阪大学SDCでは地球社会を持続可能なものへと導くビジョンの構築と、その基礎となる新しい学術「サステイナビリティ学」を創成することを目指し、サステイナビリティに関連する多様な学術領域を統合する研究を目指すとともに、サステイナブルな社会の構築をめざして様々な分野で活躍できる専門家の育成を目指してサステイナビリティ学教育プログラムを設立しました。当プログラムは、SDCの兼任教員を中心とした教授陣による科目群で構成されており、サステイナビリティに関連する様々な学問領域の俯瞰的・構造的な理解をコアとした構成となっています。またコア科目の中では、グループワークやディスカッションの機会を設け、理論のみではなく実践力を身につけさせる構成としています。当プログラムを通じて、大阪大学の学生がサステイナビリティ学の俯瞰的見識を身に付けたそれぞれの専門家として、広く社会で活躍することを期待しています。		
履修資格・条件	理系・文系を問わず全学からの学生を歓迎します。		
修了要件	1. サステイナビリティ学科科目群(先導2科目、学域1科目、アソシエイト25科目の中から4科目8単位を履修します。 2. 先導科目2科目、学域1科目のうち2科目を選択必修とします。		
ホームページ・問い合わせ先等	サステイナビリティ・デザイン・センター(SDC) 担当: 下田 吉之(しもだ よしゆき)、上須 道徳(うわす みちのり) 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1 先端科学イノベーションセンター先導的研究棟6F Tel 06-6879-4150 E-mail: edu@sdc.osaka-u.ac.jp URL: http://www.sdc.osaka-u.ac.jp/		
説明会の日程	平成 22 年 4 月 7 日(水) 10:00～ (豊中)基礎工学部国際棟Σ(シグマ)ホール 平成 22 年 4 月 7 日(水) 14:40～ (吹田)コンベンションセンター会議室2		
特記事項	SDC は東京大学、京都大学、北海道大学、茨城大学と連携し、IR3S 共同プログラムも開講しています。高度副プログラムとともに毎年開講される集中セミナー「Frontier of Sustainability Science」を修了された方には IR3S 共同プログラムの認定証が授与されます(詳しくは URL に説明があります)。サステイナビリティ学を通じて皆さんのそれぞれの研究が持続可能な社会構築とどのように結びつくのか、ぜひ探求してください!		

プログラム名称	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム (博士前期課程高度学際教育)【略称:ナノ高度学際教育研究訓練(前期課程)】		
プログラム実施部局	ナノサイエンスデザイン教育研究センター		
連携部局	理学研究科、医学系研究科、薬学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、生命機能研究科、産業科学研究所、接合科学研究所、超高压電子顕微鏡センター、極限量子科学研究センター、太陽エネルギー化学研究センター		
修了要件単位数	9単位以上		
履修対象者	修士	対象者制限の有無	有
プログラム概要及び教育目標	大阪大学大学院の各部局で従来個別に実施してきた学際性の極めて強いナノサイエンス・ナノテクノロジーに関連する大学院講義を部局横断型に再編統合し、複数の高度学際教育プログラムを編成してあります。これらの高度学際教育プログラムの履修により、従来の専門領域に加えてナノサイエンス・ナノテクノロジーの体系化された幅広い知識を修得させ、よって有能なナノ関連分野の基礎研究開発能力を持つ人材の育成を目的とします。 カリキュラム構成は、ナノサイエンス・ナノテクノロジーに関わる学生が広く聴講すべき講義群を、基盤講義(基盤講義群)、個々の分野の専門性が強い講義(専門講義群)、及び、研究者として巣立つための講義群(アドバンス講義群)に分類して、これに社会におけるナノテクノロジーの活用実例や実用化における課題を講義するナノテクキャリアアップ特論(必修科目、吹田・豊中遠隔中継)を加えて、全学の学生に対して履修を推奨します。このプログラムでは講義のみならず、主に夏期集中で部局横断的な演習、実験を含めた高度実習訓練(約30課題)を行うことを特徴としています。また、併せて前期、後期数回ずつの土曜集中講義「ナノテクノロジー社会受容特論A」、「ナノテクノロジーデザイン特論A、B」を開講します。 大学院博士前期課程向けの高度学際教育プログラムとして、以下の5つのプログラムを平成22年度に実施します。 ① ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学 ② ナノエレクトロニクス・ナノ材料学 ③ 超分子ナノバイオプロセス学 ④ ナノ構造・機能計測解析学 ⑤ ナノフォトニクス学		
履修資格・条件	なし		
修了要件	本プログラム修了認定には、1つのプログラムの中から講義科目8単位(うち所属の専攻または領域の授業科目にない講義科目4単位以上を含む)、および集中実習科目1単位以上を修得することが必要です。ただし、修得した単位(「ナノテクキャリアアップ特論」、「集中実習科目」を含む)のうち最低4単位は、所属研究科の修了に直接関わらない単位として修得する必要があります		
ホームページ・問い合わせ先等	本プログラムの全般についての問い合わせは、ナノプログラム事務局へ行ってください。電子メールの際には、必ず所属研究科・専攻・研究室名、履修プログラム名を記載してください。 ナノプログラム事務局:豊中地区 基礎工学研究科G棟1階104号室(G104) メールアドレス:nano-program@insd.osaka-u.ac.jp TEL:06-6850-6398 ホームページ:http://www.sigma.es.osaka-u.ac.jp/pub/nano/ 内線(6398)		
説明会の日程	(吹田)平成22年4月7日(水) 12時10分～12時50分 工学研究科U2棟212講義室 (豊中)平成22年4月8日(木) 12時10分～12時50分 基礎工学研究科G棟516講義室		
特記事項	2年度にまたがる履修も認めます。		

プログラム名称	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム (博士後期課程社会人特別選抜) 【略称:ナノ高度学際教育研究訓練(後期課程社会人)】		
プログラム実施部局	ナノサイエンスデザイン教育研究センター		
連携部局	理学研究科、医学系研究科、薬学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、生命機能研究科、産業科学研究所、接合科学研究所、超高圧電子顕微鏡センター、極限量子科学研究センター、太陽エネルギー化学研究センター		
修了要件単位数	9単位以上		
履修対象者	博士	対象者制限の有無	有
プログラム概要及び教育目標	博士課程におけるプログラムでは、将来の研究リーダーとして、ナノ関連の複数分野の最新科学技術を選択的に導入し統合する能力と見識の涵養、技術の社会受容の重要性を十分に認識した研究の立案や推進などの研究統括能力の育成を目指しています。そこで、ナノサイエンス・ナノテクノロジー関係に現在従事しているか、将来従事したいと考えている社会人特別選抜学生が、主専攻以外に付加価値としてナノテクの深化や多様化について副専攻的に受講することは、上記の視点で大いに役立つものと考えられます。また、社会人DCの場合、遠隔地勤務ではスクーリングによる講義受講・討論等は難しく、遠隔講義システムによるサテライト教室での受講は本人の負担を軽減することにも繋がります。 そこで、本プログラムでは、現在社会人教育向けに平日夜間に開講されている講義群を社会人特別選抜学生にも開放し、下記4コースの中から1つのコースを選んで遠隔受講を許可し、さらに土曜集中講義「ナノテクノロジー社会受容特論A」、「ナノテクノロジーデザイン特論A、B」も聴講可とする副プログラムです。 ① ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学 ② ナノエレクトロニクス・ナノ材料学 ③ 超分子ナノバイオ・フォトニクス学 ④ ナノ構造・機能計測解析学		
履修資格・条件	博士後期課程に在学する社会人特別選抜学生を対象とし、主に職場の関係で来学が困難な社会人学生が中之島センターの教室、または遠隔講義システムを利用してサテライト教室にてライブ受講することが条件です。なお、来学可能な場合は吹田、豊中両キャンパスの遠隔教室での受講も可能です。		
修了要件	本プログラムの修了認定には、上記のプログラム群から1つのプログラムを選び、「ナノテクノロジー社会受容特論」(1単位)、「ナノテクノロジーデザイン特論A、B」(各2単位)を含めて9単位以上を修得することが必要です。なお、取得した単位の内、4単位を超える部分については指導教員の認定を得られれば、所定の手続きを経て修了要件単位に組み入れることができます。		
ホームページ・問い合わせ先等	本プログラムの全般についての問い合わせは、ナノプログラム事務局へ行って下さい。電子メールの際には、必ず所属研究科・専攻・研究室名、履修プログラム名を記載して下さい。 ナノプログラム事務局: 豊中地区 基礎工学研究科G棟1階104号室(G104) メールアドレス: nano-program@insd.osaka-u.ac.jp TEL: 06-6850-6398 ホームページ: http://www.sigma.es.osaka-u.ac.jp/pub/nano/ 内線(6398)		
説明会の日程	4月2日より開講のため、事前説明会は開催しませんので、随時ナノプログラム事務局へ問い合わせてください。講義内容等は、ナノプログラムのホームページ上に掲載されている社会人教育の項を参照してください。		
特記事項	2年度にまたがる履修も認めます。		

各プログラムの詳細については「プログラム紹介」の各プログラムの問い合わせ先にご照会下さい。

発行者：大阪大学学生部（担当：学務課学務係）
〒565-0871 吹田市山田丘 1-1 tel：06-6879-7107



OSAKA UNIVERSITY



001003

この用紙は人類環境浄化のため
再生紙を使用しています。